

第4回検討委員会における意見の整理

第4回委員会では「中間支援組織の役割と協働・連携の仕組みづくり」と「協働・連携を生み出す情報施策」をテーマに審議をした。

委員が活動の中で把握した課題、審議テーマに関する各委員の意見などを次のとおり整理した。

【中間支援組織に関する課題】

- ① 区レベル、地域レベルの住民参加型の中間支援と、社会的課題解決の担い手に対する全市的な中間支援の2つの議論があり、それぞれ別の整理が必要
- ② 企業側から見た全市的な中間支援組織の不在
- ③ 区レベルの中間支援では、中間支援をしたいと思って活動を始める人は少ないので担い手が不足し、行政の縦割りもあり、運営・相談機能等に改善の余地がある。

【中間支援組織の今後の方向性】

- ④ これからの中間支援組織は、資源の提供者と使用者の仲立ちやサービスのコーディネートとしての役割が求められているのではないか。
- ⑤ 普通の人や企業などと言う意味で、市民が利用する中間支援組織があっても良いのではないか。
- ⑥ 活動しようと思っている人がまず行くのは身近な区役所で、今後、区レベルの中間支援の機能が充実することが必要
- ⑦ 社会的起業などの支援拠点は、身近な場所よりも交通利便性のよい場所に設置した方がよいのではないか
- ⑧ 市民活動団体が市民や企業、団体同士で交流する場が必要

【協働・連携を生み出す情報施策について】

- ⑨ ホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどの特性を使い分け、効率的な情報発信やメディアミックスが重要
- ⑩ 情報提供はICTを活用したデジタルと地域に根付いたアナログの両方が必要
- ⑪ 入力した情報がいろいろな広報に反映されるようなシステムが構築されるとよい
- ⑫ 双方向性であれば、市民活動団体などがリアルタイムで投稿できる仕組みが重要

【委員の活動事例紹介と論点出し】

○かわさき市民活動センター

- ・ 現在1ヵ所しかないが南部、中部、北部と3ヵ所くらいは必要
- ・ 市民活動団体の活動拠点が少ない
- ・ かわさき市民活動センターは公益財団法人のため事業の自由度が低い

○社会福祉協議会（ボランティア活動センター）

- ・ 専任職員がいないため、地域に出向く時間取りにくい
- ・ 課題解決型の組織との連携強化が必要

○mass×mass 関内フューチャーセンター

- ・ NPOのビジネスモデル構築、資金調達力の強化、担い手の高齢化
- ・ 地域課題の解決の担い手の多様化対応した制度構築
- ・ 中間支援組織の提案力強化

○宮前まちづくり協議会

- ・ 新しい人の参加が必要
- ・ 長期目標、理念などの明確化
- ・ 新しい仕組みづくり（オープンデータ、ビッグデータ）が求められる